

民藝ガイド 5つの産地から

昔から今に伝わる、生活のために使われるものたち。各地で、それぞれの土地の自然と暮らしを大切にしながら、手づくりされてきました。

今から100年ほど前…思想家の柳宗悦たちは、そのようなものたちが、独特の「美しさ」を持っていることに気がつき、「民衆の工芸」と名づけました。そして、人々にもその魅力をつたえ、広めました。



やなぎむねよし 柳宗悦 (1889-1961) 写真提供:日本民藝館

「民藝」は今もいろいろな場所で作られていますよ。そのなかでも展覧会で紹介する、5つの産地をみてみよう。



岡山県倉敷市 倉敷ガラス

兵庫県丹波市 丹波布

富山県富山市・八尾町 八尾和紙

大分県日田市 小鹿田焼



鳥越竹細工



展覧会では、5つの産地と作り手さんたちを紹介する映像のほか、今と昔、いろいろな「民藝」のかたちを実際にみる事ができるよ！ 気になる「民藝」をみつけたら、どんなところが好きか、考えたり話してみてもいいね。

会期: 2024年4月24日(水)~6月30日(日) 会場: 世田谷美術館

開館時間: 10時~18時(入場は17時30分まで) 休館日: 月曜日 ※ただし4/29(月・祝)、5/6(月・振休)は開館、5/7(火)は休館
世田谷区立公園1-2 お問い合わせ 050-5541-8600(ハローダイヤル) <https://www.setagayaartmuseum.or.jp>

主催: 世田谷美術館(公益財団法人せたがや文化財団)、朝日新聞社、東映 後援: 世田谷区、世田谷区教育委員会、J-WAVE 協賛: TOPPAN

観覧料: 一般1700円、65歳以上1400円、大高生800円、中小生500円 展覧会公式サイト: <https://mingei-kurashi.exhibit.jp/>

ぶん: 加藤 鶴(世田谷美術館) シャレン: オガウユウキ イラスト: 亀田麻衣 デザイン: 田辺智子

小鹿田焼

おおいたりひたし・おんた
(大分県日田市・小鹿田)



鉄袖黒黄流文字入せんべい壺
江戸時代19世紀
日本民藝館蔵

えどじだい つづ やま こ
江戸時代から続くといわれる、山に囲まれた
やさもの(陶器)の里。代々、親から子どもに作り方を
つた 伝えて作られているよ。

1
これが唐臼。
水の重みで、シーソー
のように動くんた。



げんりょう とち
原料は、この土地でしかとれな
い土。川の流れを利用した「唐
臼」という仕組みで土をついて
細かくし、粘土にするよ。



2
ねんど
粘土ができる
までは、1か月
以上かかるよ。

ねんど さら つぼ
粘土でお皿や壺
などのかたちを
つく
作る。そのあと、
模様をつけるよ。

もうすこし解説!

おんた かま
小鹿田の窯は、山の斜面を利用
して、下からどンドン火が登って
いく「登り窯」だよ。



3

もくざい まき も
木材(薪)を燃や
して火をいれた
こうおん かま や
高温の窯で焼き
かた
固めるよ。

現在の 作り手さんの ことば

「土を砕くのは川の水だし、乾かすのは太陽だし、窯の火も思い通りに扱える訳ではない。手の及ばないところが結構あるから、“自然が言うなら仕方ない”という思いが常にあります」

ちから
人の力では、
コントロール
できないこと
も多いんだ。

小鹿田焼のいま

人と自然がつくる、ひとつとして同じものがない
オンリー・ワンの器、小鹿田焼は大人気!
ただけど…土をつくる唐臼や、器を焼く登り窯を
つくることのできる職人さんは減っているんだ。



ひ まき
火をおこす薪
も手に入り
にくくなって
いるよ。

たんばぬの丹波布

ひょうごけんたんばし (兵庫県丹波市)

丹波布 1950-60年代 日本民藝館蔵

のどかな自然がひろがる丹波。江戸から明治時代にかけて、たくさん作られていた手作りの布地。「民藝」の視点でその美しさが注目され、ふたたび作られるようになったんだよ。



1



めんか 綿花からとれる、ふわふわの白い綿毛を手で紡いで糸にするよ。

いと ぎょう どうぐ 糸つむぎの材料と道具

しょくぶつ 植物によって色がかわるよ。栗の皮などからも色がとれるんだ。



2



いと くさ き できた糸に、草や木などの植物を煮出した液で、色を染めるよ。

つか つか 使えば使うほど、やわらかく心地よくなるんだって。



3



いと きぬいと 染めた糸に、絹糸も織り込みながら、機織りをしてぬの布にするよ。

現在の作り手さんのことば

「色を染める材料の草木が、一番力を持っているときに採取してそれを乾燥して保管するんです」

「草木が力を持つとき」ってどうやってわかるんだろう？ 植物の力を色に変えて糸に染めているんだね。

丹波布のいま

たんばぬのでんしょうかん にねんかんまな 「丹波布伝承館」で2年間学んで、ぎじゅつ 技術が認められれば、たんばぬの 作り手になることができるよ。



いちど せいさん 1度は生産がとどえた丹波ぬのの未来のこ布を未来へ残すための、しく 仕組みができたんだね。

きもの 着物はもちろん、こもの バッグや小物にへんしん 変身することも。

とりごえたけざいく 鳥越竹細工

いわてけんのにへくん・とりごえちく
(岩手県二戸郡・鳥越地区)

竹行李 1930年代 日本民藝館蔵



いわやま かんの人 みまも とち
岩山にまつられた観音さまが見守る土地。
なつ のうぎょう さむ きび ふゆ いえ たけざいく
夏は農業、寒さ厳しい冬は家のなかで竹細工づくり。
だいたいつづ かぞく しごと
それが代々続く家族の仕事だったよ。

1



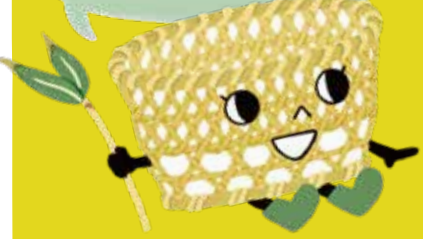
まずは山へ、
「すず竹」を
とりにいくよ。

ゆき おも た ぼそ
雪の重みに耐えるためか、細く
てもしなやかで、折れにくい。
ぼしょ げんりょう
この場所ならではの原料だよ。

2



いっぽん たけ
1本のすず竹を4つに
さ 割く。さらに削りなが
ら、太さや厚みをそろ
ふと あつ
え、竹ひごにするよ。



3



たけ こうさ
竹ひごを交差させて、
手でさまざまなかたち
に編みあげていくよ。

げんざい
現在の
つくり
作手さんの
ことば

むかし まも いま せいかつ あ
「昔のまま」を守っても、今の生活に合わなければ、
つか つか つく
使われなくなってしまう。使われなければ、それを作る
じたい お
こと自体も、ぶつっと終わりにになってしまうんです」

むかし かた まも
昔のつくり方を守りながら、
いま く やくだ
今の暮らしにも役立つもの
をつくる工夫も必要なんだ
きもの とうふく あ
ね。着物にも洋服にも合う、
おしゃれなバッグもあるん
だって。

鳥越竹細工のいま

ちかごろ たけ はい やま くま で
近頃は、すず竹をとりに入る山に、熊が出る
ことも。また、120年に1度ともいわれる、
ひやくにじゅうねん いちど い
地域の「すず竹」が枯れつくす現象がおき
ちいき たけ か げんりょう
ているよ。



しぜん かた ふか
自然との関わりが深い
かんきょう へんか
からこそ、環境の変化は
いちだいじざいりょう
一大事。材料がなければ、
つぎ せだい つく かた つた
次の世代に作り方を伝え
ていくこともむずかしい!

やつおわし 八尾和紙

とやまけんとやまし・やつおまち
(富山県富山市・八尾町)

せんねんちか まえ わし おこな
千年近くも前から、和紙づくりが行われてきた
川の近くちかの町。江戸時代に、葉の包み紙として
和紙づくりが発展したよ。

型染カレンダー
1958年4月海外版
芹沢鍾介 1957年
静岡市立芹沢鍾介美術館蔵



げんりょう こうぞ
原料は、楮という
植物の皮。煮て蒸
し、洗って繊維が
ほぐれたら、ねばり
のある粘液を加え
るよ。



どろどろになった
原料を水に張って、
漉いて四角い紙に
し、1枚ずつ重ねて
いくよ。



水を切り、乾燥させた
ら和紙が完成。そこ
に、型染(*)をして色や
模様をのせるよ。



もうさし解説!
えがら 絵柄を切り抜いた型紙を使っ
て、まずは色を染めたくない部分にのりを置く。その後、
上から刷毛で色を差し、最後にのりを塗った部分は紙の
元の色が残り、模様が浮かび上がるよ。

ねんえき
粘液は、トロロ
アオイという
オクラに似た
植物からとるよ。



げんざい 現在の つくり 手さんの ことば

むかし あお あお いちどすみ お っ
「昔は青でも、青に一度墨を入れて落ち着か
せていて、色の数も茶、青、赤くらいでした。
それが今は黄色もあれば緑色もあります」

むかし しじ
昔ははくしておとなっばい
色みが好まれたんだ。作り方
は昔のままでも、色の数は
ふやしてきたんだね。

八尾和紙のいま

わし
和紙でさまざまなものをつくって
いるよ。現代の好みを取り入れた、
カラフルな小物が大人気!



かみす でんとう な
紙漉きの伝統が長い
やつお いま づ
八尾で、今も続いて
いる工房は1軒のみ
なんだ。

くらしき 倉敷ガラス

おかやまけんくらしきし (岡山県倉敷市)

ここは、もともとクリスマス飾りのガラス玉を手づくりしていた工房だった。そこに「民藝」の関係者が、コップをつくってみたいかと声をかけたのがはじまりだよ。



酒瓶
小谷眞三
1985年頃
日本民藝館蔵

1



こうおん ろ と
高温の炉で溶
かしたガラス
を竿にとる。

2



と
溶けたガラスがたれないよう
に、竿をまわしながら口で息を
ふきこみ、かたちをつくるよ。

かいせつ
のすこし解説!

さお ふ
竿を吹いて、ガラスを風船のよう
にふくらませる＝「吹きガラス」
と呼ばれる作り方だよ。



しよっき こうじよう
ガラス食器は、工場で
「一度に効率よくたく
さん」作ることが普通にな
っていた時代。そんな
なか、手づくりでガラス
の器を1つずつ作ること
にしたのよ。



3

あつ
ガラスが熱いうちに、
模様やかざりをつける。
冷めると固まるんだ。

げんざい
現在の
作り手さんの
ことば

せんさい
「繊細なものって見た目は綺麗でも使うにはやや適さない
ところがあるじゃない。かと言って重たすぎるのはどう
か。今は自分が使いやすい大きさ、重さ、形にしている」

み め うつく
見た目の美しさと、使い
ごち。ちょうど良いバラ
ンスを見つけて、作り出し
ているんだね。

倉敷ガラスのいま

こうぼう おや こ ひ つ
工房は親から子へと引き継がれ、
二代目に。最初はごつくて重かっ
たコップを、使いやすい大きさや
重さ、形にしているんだって。



つめ
ガラス＝冷たくて、こわれやすい
イメージだけど…倉敷ガラスは、
手づくりならではの厚みがある。
手にとると、なんだかほっこり
安心感があるよ。